Powered by Vivliostyle

文体操舵録



『文体の舵を取れ』練習問題の手帳

ayhy

2

この本は『文体の舵をとれ ル=グウィンの小説教室』(2021)の課題を一個人が実施したものをまとめた制作物です。版元とは一切の関係がありません。

この作品はフィクションです。作中に登場する人物、団体、場所、 出来事はすべて架空のものであり、実在する人物、場所、出来事と は一切の関係がありません。

問三3b 傍観型の語り手36	問一3b 三人称限定①32	問一3a 三人称限定② 27	視点と語りの声326	問三2b 傍観型の語り手22	問一2b 三人称限定①18	問一2a 三人称限定② 13	視点と語りの声2 12	問二1	問一19	序 9	自分の文のひびき・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		目次	
			問三6b 傍観型の語り手??	問一6b 三人称限定①??	問一6a 三人称限定② ??	視点と語りの声6??	問三5b 傍観型の語り手??	問一5b 三人称限定①??	問一5a 三人称限定② ??	視点と語りの声5 ?:	問三4b 傍観型の語り手??	問一4b 三人称限定①??	問一4a 三人称限定②	視点と語りの声4 ??

問三12b 傍観型の語り手 ??	問三9b 傍観型の語り手?:
問一12b 三人称限定①·?	問一9b 三人称限定①??
問一12a 三人称限定②·??	問一9a 三人称限定②??
視点と語りの声12 :?:	視点と語りの声9 ?
問三11b 傍観型の語り手 ?:	問三8b 傍観型の語り手??
問一11b 三人称限定①·??	問一8b 三人称限定①??
問一11a 三人称限定②·??	問一8a 三人称限定②??
視点と語りの声11??	視点と語りの声8 ?
問三10b 傍観型の語り手??	問三7b 傍観型の語り手??
問一10b 三人称限定①·??	問一7b 三人称限定①??
問一10a 三人称限定②·??	問一7a 三人称限定②?:
視点と語りの声10 ??	視点と語りの声7 ?

問三15b 傍観型の語り手 ??	問一15b 三人称限定①·?	問一15a 三人称限定②·??	視点と語りの声15 ?:	問三14b 傍観型の語り手 ??	問一14b 三人称限定①·??	問一14a 三人称限定②·??	視点と語りの声14 ??	問三13b 傍観型の語り手 ??	問一13b 三人称限定①·??	問一13a 三人称限定②·??	視点と語りの声 13 ??
問三18b 傍観型の語り手 ??	問一18b 三人称限定①·??	問一18a 三人称限定②·??	視点と語りの声18 ??	問三17b 傍観型の語り手??	問一17b 三人称限定①·??	問一17a 三人称限定②·??	視点と語りの声17 ??	問三16b 傍観型の語り手??	問一16b 三人称限定①·??	問一16a 三人称限定②·??	視点と語りの声16 ??

問三20b	問 20b	問 20a	視点と語り	問三19b	問一19b	問 19a	視点と語り
傍観型の語り手 ??	三人称限定① :??	三人称限定②??	の声20??	傍観型の語り手 ??	三人称限定① :??	三人称限定②??	の声19 ??

合評会でご一緒した皆様に心より御礼申し上げます。

自分の文のひびき

になります。本文の後に置く場合は合評へのレスポン の意図が達成されたかという観点で突っ込んだ合評 面を設ければ、 の場合、 ことをセットとした合評会の設計もあります [1] 解説のように作者が予め作品と合わせて解説を出す いますが、 書かれた文に意図を説明するのは野暮と言われ 読み手への答え合わせになるでしょうか。 本文が始まる前に書き手が意図を説明する紙 ワークショップの本によっては美術展示の 参加者は予断をもって文章を読み、そ そ ż

です。 探りで何も考える余裕がなかったのが正直なところ 章の第 問 一問とやっている間はとにかく手

∃"The anti-racist writing workshop the anti-racist writing workshop" (F. R. Chavez, 2021)など

なかったって思い知らされる。胃が重い。重すぎて、 立ち去るころになって、あの子に大したことができ

動かないくらいだ。遠ざかっているはずなのに、 かぎりは、 たいにぶつけた日記と、 ているのかも。 んとか「いい思い出になった」って話せる台本を作っ じゃないんだけど。取り消し線を沢山引きながら、 っている。どう考えても、何かを書くのに向いた環境 鞄を開けて、こうやって新しいノートを開く羽目にな さくならない。だから目を逸らすように下を向いて、 ひっかかったままの焦げた気球がいつになっても小 幌馬車がガンガン跳ねても22、 たことを書く気はない。ただ何もかもが失敗した訳 本当のことはすぐわかるけど。起きなかっ 鞄に詰まった黒革の、苛立ちを毎日み 市長の手元のレコードがある 胃だけは同じ位置から

文体操舵記録

[2] キャンバス地と木造の骨組みを使った旧大陸の幌馬車以上

金属体の骨格を再利用した幌馬車は振動を伝えやすい。

じ に 閉

わけでもないだろう? ないし、日記だって、起きたこと全部を書いている

話じゃなかったとも思うんだ。火トカゲのマーサが始 めて熱気球を打ち上げたときのことは。 気持ち。でも、多分、視点を変えれば、そんなに悪い もっと上手くやれたはずだった、というのは正直な

る。

問二 1

龍紗から水がや海面から躍り を蹴 は支えない。 う弧になる。 水面を叩いては緩んで広がった。ふたたび白蛟が床板 らし伝いながら海面へと戻った。跳ねた白蛟を空気 蛟の子は飛び上がり、沈みこんでは床板を蹴り、 れば、 への繋ぎ橋はまだ、 躍り出る。 跳ねとんだ下肢は陽ざしの下、床板へ向か 龍紗が吐き出した水は、こんどは橋桁を 抜け落ちては、 床板は白蛟のを強かに打ち付けたが、 全身は届かなかった。上体の 上り坂のままである。 膚をぺたりと取り囲み、

> 側から、 れば、 空気の中で育つ藻と珊瑚が隣島の殻を覆い、 珊瑚の浮き上がるような赤とも黄とも緑ともつかない。 濃淡を認めるだろう。 空気に招かれて浮き上がる。がらんどうの島を見上げ ては新しい色を得る。ひとたびうつろになれば、 隣島への道を渡る。 痛みによろめき、 じた龍紗が下肢を保護していた。それでも白蛟の子は けていく紺青でもなく、 中身は白蛟たちの島に吐き出されて、 死んだ珊瑚も同然に色あせていた。 坂を登り切って見下ろすなら、白と灰でない まろびながらも肢を整えては橋の上、 その内側は、 水面近くの白藍でも、 水の纏う色ではない。 まだ空洞のはずであ いま空気の 混ざりあっ 深みの溶 白蛟が見 生きた 島は

はずである。 むまい。 白蛟は意を決すると、 白蛟の、 ましてや子ひとりの重さでは沈 肢を揺らして殻のふ

隣島に中身が戻り、

橋が下り坂になるのはずっと先の

たことのない色と形で手招きするように揺れていた。

ち

11

にかけた。



視点と語 りの声 2

三人称限定①

いく。 唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

て歩いていく。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

> る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足 駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切 リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に て先導する。大人だと大体三歩、 バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、 い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときの っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。 やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅し 弟の背丈ならだいた 絶対

けるのを見た。 悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続

膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

る。

通り抜けた。

無事に。

みんなそうしてるみたいに。

にマットレスの感触。

12

٤ しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像 内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、

問一 2a 三人称限定②

していられるの?

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き れると、、 も力強さがわかる。 部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この 綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部 啓が横に一歩踏み出して列からず

ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転 で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。 背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

啓は駆けだしていた。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

٤

知っていた。 して向こう側を見ようとする。 きの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から 助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま 仕方ないので列から動かずに、 首を伸ば

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。 考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか? バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、 わりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は 家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を 啓は

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま での期間限定だけど。 回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、 ぼすん

って、 が合うのはなんだか気まずい。 いう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目 啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。 顔をそらした姉に向か

遠隔型の語り 手

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。

地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 差し向

イクルキャプチャ©は、

対象が動いてくるの

を

部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

アー に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ チ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 サイクルキャプチャ®は 《再構成圏内》

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

カメラ映像から三次元形状を再構成する。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目りのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とがギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 2a 傍観型の語り手

ートを蹴りつけ続け―― 背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ一日ぶり十六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃートを蹴り一六件目。私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃートを蹴りつけ続け

力

か

のだ。 のだ。 のだ。 しれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時たかもしれない。一睡もできなかったけれど。着陸時かに叩きつけられるのは、まあマッサージとでも思え

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 緒に歩いていた。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 問 四 2 a 潜 入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 描

16

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。キナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキリ間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキリでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

場所を選んだ理由だった。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はャの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

れた線を隠しきれてはいない。げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、や

「当日の様子を話していただけますか?」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答していた。当時のシフト表ではスキャナールームにのンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当エリーが、

いた。 込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ めぐる訴訟は続いている。 まだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を 高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた 唐木田がこの場で有効な証

るのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、 こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前に の事例が念頭にありました。 余談ですが、 書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触させ

2 b 三人称限 (定) 即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はか

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、 しゅわん、 と風を切る音がする。低いぶーんという 周期的に繰り返す。 メト 口 ノ 1 4

Z

いく。 刺さる。 たいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き 行列を進んでいくたびに、音は大きくなって

ける。 駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ りと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜 隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

て歩いていく。

やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、 悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、 ることは、悠にはまだ信じられない。 さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。 回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け 絶対

でも弟はもう駆けだしていた。 弟の手前でさえなければ。 床面の矢印が点滅

バリアフリーの入場ゲートへ案内されていた。悠もそ

っちへ行きたかった。

L

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

にマットレスの感触。 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりとがんだレンズ――あんなの、も

問一 2b 三人称限定②

れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも―― 啓が見 たことのある本物のジャイロスコ

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験からいがを引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういうと

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

ŧ

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。 遊るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いう柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。 ◆ 問二 2b 遠隔型の語り手

儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84~8の範囲で回転している。RPM

内部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、そ

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ©は《再構成圏内》を上りの高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

地球

ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ@へ飛び込む親子連れも、年齢制限を

は少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることく人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停く人間を検知し静止するよう設定されており、緊急停する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

プできない子供たち、

跳びこむ動きが困難な利用者を

っている。

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

問三 2b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇わメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に近づいてくる強面の制服を着た保安員、つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

に女の子は立ち上がり、一緒に来たと思しき男の子とが伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手側を振り返ると、マットレスにカエルのように潰れてくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って

りな旧式スキャナの電源を入れる。

髙橋さんに目配せをしてドアを開け、そちないドアに向かって親子連れを先導した。

そちらの大掛かった。同シフトの

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

緒に歩いていた。

<

n

ない。

エントランスは殺風景で、出口ドアから覗くカラフ◆ 問四 2b 潜入型の語り手

ューズメントパークの園内である。ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか銀の半円リングが回っている。

だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん国、飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに虹をくぐった先の魔法の国、霧を抜けた先の不思議の

非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

5

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む

うャ

に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな

VRアミューズメント施設では実際に体を

いものだ。

や、おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、く球の中央を通る。しかし時折、勢いあまった子供達正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの描み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込ったかもしれない。

いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

ンユス、とうぎょうユーカニカニューのエンンズで形で、あらがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カリングの外縁に近付いてしまう。

ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働られる。保安員が指導されているのは、そのような事しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚しかし、

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒 それこそが、 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 れた線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を

の事例が念頭にありました。 余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故

回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

視点と語りの声 3

▼ 問一 3 a 三人称限定①

しゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

いく。刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームみ

て歩いていく。ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ駅けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

さっきまで並んでいた家族連れを悠は思い返した。ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対なる音がずっと右から下から左から―― そして膝に足い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にい五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭になるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なる音がずっと右から下から左から―― そして膝に足る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足の音がずっと右から下から左から―― そして膝に足の音がずっと右から下から左から

けるのを見た。。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続き、悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけにマットレスの感触。

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの?しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然としも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然と、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、も

でも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 3a 三人称限定②

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向きと、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。このれると、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

- 啓が見たことのある本物のジャイロスコ

襟を引っ張る姉はいつもよりも不機嫌だ。こういう

して向こう側を見ようとする。知っていた。仕方ないので列から動かずに、首を伸ばきの姉を刺激しないほうがいいことを、啓は経験から

考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームがま

遮るシャツの背中が減る。装置が遮られずに見える。家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

啓は駆けだしていた。

トランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と

での期間限定だけど。じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まじられる。バリアってこういうことなんだ。次の人まレンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側で

着地した啓が出口に向かって歩きだすと、ぼすん

٤

文体操舵記録

27

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目

サイクルキャプチャ©のアーチが回っている。 ◆ 問二 3a 遠隔 型の語 り手

地球

毎分回転8~8の範囲で回転している。 ペラム かいちメートルに設置された軸受けで水平に保持された に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正 の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。 を撮像する。 こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定 大縄跳びに近い。 儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、 チ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体 イクルキャプチャ©は、 部へ跳びこむことを要求する。 サイクルキャプチャ®は 附帯設備の可動トランポリンは、そ 対象が動いてくるの 《再構成圏内》 図式としては 差し向 を

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にな

っている。

クルキャプチャ©へ飛び込む親子連れも、 《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメン は少ない。安全性に懸念を示す親や、 止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること する銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。 超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転 ト施設においてはほぼ必須の設備と化している。 然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に人 カメラ映像から三次元形状を再構成する。 プできない子供たち、 く人間を検知し静止するよう設定されており、 を捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、 モーションセンサはトランポリンとアーチ部へ近づ 80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、 跳びこむ動きが困 怖がってジャン 難な利用者を 年齢制限を 緊急停

った異音もなく、いまのところ安定していた。先週交換したばかりのアーチ部は、事前に苦情のあ

整理がかなり大変だと思いました。 と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目と思います。未知の情報を読者に提示することを主目かが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

◆ 問三 3a 傍観型の語り手

日ぶり十六件目。

私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ

ートを蹴りつけ続け――背中を椅子越しにリズミその子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行のとした泣き声の発生源に、意を決して近づいた。こ

のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。
のだ。

予定もたたないだろう。とはいえ、私のような雇われメントパークに入れずに門前払いされては今日一日の威圧感を覚えたのか、彼らの顔が強張る。アミューズ

近づいてくる強面の制服を着た保安員、

つまり私に

保安員に彼らを追い出すような権限はない。

高橋さんに目配せをしてドアを開け、そちらの大掛ないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのようににっこりと笑うと、私は部屋の端にある目立たて赤くなった目でこちらを見上げてくる。安心させると、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らしと、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし少し時間がかかりますが、という前置きして告げる

か

力

りな旧式スキャナの電源を入れる。

に女の子は立ち上がり、 が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前 女の子が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手 側を振り返ると、 くると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちら 緒に歩いていた。 無事に親子が入場したのを見届けてドアから戻って マットレスにカエルのように潰れて 一緒に来たと思しき男の子と

ない。 私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によく

ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ エントランスは殺風景で、 問 四 з а 潜 入型の語り手 出口ドアから覗くカラフ

ったかもしれない。

ューズメントパークの園内である。

銀の半円リングが回っている。

その 回る動きも、 すでに入場料を払っているのだ

や

か

国 虹をくぐった先の魔法の国、 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。 5 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに アトラクションの一部と言えなくもない。 霧を抜けた先の不思 それは 議

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込むと だ大人の子供のスキャンし、その現し身をデータ世界 いものだ。VRアミューズメント施設では実際に体を に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 く球の中央を通る。 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。踏み込 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は しかし時折、 勢いあまった子供達 描

30

しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポーリングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ

しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間を取

マニュアルでは、別室扱いの客が出た時のためにぺいったものを手短に別室へ案内することも含まれる。ヤナを怖がる子供、うまく飛べそうにない大人、そう時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのような事られる。保安員が指導されているのは、そのような事

れた線を隠しきれてはいない。

いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプずんだ枠となって残っている。アトラクションではなエントランスは殺風景で、撤去された機材の跡が黒

アで保安員を配置するよう記されている。

チ

易所を選んご里由ごっこ。当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこの当事者の記憶の中にある。それこそが、唐木田がこのは実際に運用される前の状態であった。当時の面影はゃの導入事例としてカタログには載っているが、それ

げて緑のジャケットの女性が頷いた。化粧でも、やつ唐木田が振り返ると、機材の跡の染みから目線を上ります」

といったかが部屋を外しているときの出来事だった。といったかが部屋を外しているもう一人の保安員、たしか宮垣とていた。当時のシフト表ではスキャナールームにのとった。当時のシフト表ではスキャナールームにの無理もない。高橋という名の元従業員は、エントラー当日の様子を話していただけますか?」

いた。
いた。
少なくともその点で、二人の利害は一致してかった。少なくともその点で、二人の利害は一致して込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けた込むだろう。高橋も唐木田も、そのシナリオは避けたまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任をまだサイクルキャプチャの開発元と、事故の責任を

こんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、の事例が念頭にありました。回転体に人間を接触させの事ががですが、書いているときは過去の回転ドア事故

問一 3b 三人称限定①

即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はか

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。

唸りに重なって、周期的に繰り返す。メトロノームーしゅわん、と風を切る音がする。低いぶーんという

Z

いく。 刺さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなって対さる。行列を進んでいくたびに、音は大きくなってたいに正確で、テストのときの秒針みたいに耳に突き

ける。隣のマットレスに着地して、男は出口に向かっりと髪が逆立つあいだに、足下を半円リングが通り抜駆けていった。沈み込んで大きく跳ねて、中空でふわ

列の先では、男がトランポリンに向かって小走りに

ることは、悠にはまだ信じられない。回転する金属の半円リングをジャンプして通り抜け

て歩いていく。

でも弟はもう駆けだしていた。床面の矢印が点滅っちへ行きたかった。弟の手前でさえなければ。やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、やだと泣き叫び、挙句両親もスタッフも手を上げて、終し大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対悠と大して歳も違わない子供は、あんなの無理、絶対

L

い五歩、つまり悠もそれぐらい。廊下を駆けるときのて先導する。大人だと大体三歩、弟の背丈ならだいた

にマットレスの感触。 る音がずっと右から下から左から―― そして膝に足駆けだして、視界が沈んで、跳ねて、ひゅんと風を切なるのも一瞬だった。考える暇もなく、息を止めて、リズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭にリズムで、そのまますっと跳んでしまう。列の先頭に

けるのを見た。る。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続な。悠は口を引き結び、振り向いて円リングが回り続膝と手を着いた着地をまじまじと見る弟をねめつけ

通り抜けた。無事に。みんなそうしてるみたいに。

していられるの? しも転んだりして当たったら。どうしてみんな平然とと、内側にずらりと並んだレンズ――あんなの、もと、内側にずらりと立んだレンズ――あんなの、もでも内側から見えた半円リングの頑丈そうな枠の残像

問一 3b 三人称限定②

れると、、綿シャツの背中の向こう側にフレーム基部も力強さがわかる。啓が横に一歩踏み出して列からず部屋には低いモーター音が響いていて、靴裏からで

背中に感じる圧力に啓は振り返って、列に戻った。で描く球は啓が五人入ってもおつりがきそうだった。ープよりも、ずっと大きい。半円のフレームが一回転でも――啓が見たことのある本物のジャイロスコ

ジャイロスコープモドキは本物みたいにくるくる向き

と、その間をぐるりと回る銀色の残像がのぞく。この

を変えないし、リングも一本、それも半分だけだ。

助走をつけてジャンプすると、半円のフレームが

ŧ

家族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を考える。ちゃんとバリアの中心にいるだろうか?バリアみたいだ。自分の番が来たときのことを、啓はわりを一回転して球をつくる。人が跳ぶとできる球は

回転するフレームのなめらかな音、フレームの内側でトランポリンのばねで高くジャンプする。浮遊感と啓は駆けだしていた。 整は駆けだしていた。 変族の一団が列から抜けて列が一気に進む。視界を

って、啓は口をとがらせる。早く出口行こうよ。が合うのはなんだか気まずい。顔をそらした姉に向かいう柔らかい音がした。姉だ。着地を失敗した姉と目いり柔らかい音が出口に向かって歩きだすと、ぼすんとでの期間限定だけど。

じられる。バリアってこういうことなんだ。次の人ま

レンズがきらきらしている、その全部がコマ送りで感

問二 3b 遠隔型の語り手

かい5メートルに設置された軸受けで水平に保持され、儀の弓を思い起こさせる半円の金属アーチは、差し向サイクルキャプチャ®のアーチが回っている。地球

サイクルキャプチャ®は、対象が動いてくるのを毎分回転84~48の範囲で回転している。RPM

の加速度になるよう補正して回転部へと打ち上げる。こに踏み込んだ人間の重量と慣性を測定制御し、一定

カメラ映像から三次元形状を再構成する。に突入する際の速度から映像中の重心位置を補正し、を撮像する。サイクルキャプチャ®は《再構成圏内》アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体アーチ内側の高速度カメラは一回転で30~40枚の人体

然ながら事故の可能性で物議を醸した。だが一度に80個のカメラを把持する金属アーチの回転体は、当

大縄跳びに近い。附帯設備の可動トランポリンは、

内部へ跳びこむことを要求する。

図式としては

34

超えたばかりの子供たちも、何事もない顔をして回転クルキャプチャ@へ飛び込む親子連れも、年齢制限をト施設においてはほぼ必須の設備と化している。サイ《生身のような没入感》をうたうVRアミューズメンを捌ける速度は同様のスキャナーの追随を許さず、

低速の静止スキャン設備へ案内するのが主な仕事にないできない子供たち、跳びこむ動きが困難な利用者をは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャン止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやること止ボタンの本来の使用者である常駐保安員のやることは少ない。安全性に懸念を示す親や、怖がってジャンする銀の大縄へ跳びこみ、スキャンを終えて出ていく。

的とした場合、子供の視点を通して伝えるのは情報のと思います。未知の情報を読者に提示することを主目いう評をわりといただいた実作で、それはその通りだうのが問一段階では取りにくい(問二でわかった)とがミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、といギミックとなるぶんぶん回ってる機材が何か、とい

整理がかなり大変だと思いました。

文体操舵記録

35

った異音もなく、

いまのところ安定していた。

先週交換したばかりのアーチ部は、

事前に苦情のあ

っている。

問三 3b 傍観型の語り手

その子供は届かない床に地団駄する代わりに前面のシ 機内のことを思い起こさせる。何が気に障ったのか、 をなだめようとしている親が浮かべているのと同じも に目が合った両親の申し訳なさそうな表情は、 たかもしれない。一睡もできなかったけれど。 ルに叩きつけられるのは、 の世の終わりのように泣き叫ぶ子供は、いつかの飛行 んとした泣き声の発生源に、 トを蹴りつけ続け 一日ぶり十六件目。 私は部屋に響き渡るぎゃんぎゃ 背中を椅子越しにリズミカ まあマッサージとでも思え 意を決して近づいた。こ 今子供 着陸時

と、安堵した親が子供に声をかけ、子供は泣き腫らし、少し時間がかかりますが、という前置きして告げる保安員に彼らを追い出すような権限はない。

ようににっこりと笑うと、

私は部屋の端にある目立た

安心させる

て赤くなった目でこちらを見上げてくる。

が伸びるが、救護センターへのホットラインを繋ぐ前の手が倒れていた。反射的に支給のレシーバーに手供事に親子が入場したのを見届けてドアから戻ってくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらくると、ぼすんという大きな音がした。慌ててそちらのを振事に親子が入場したのを見届けてドアから戻ってないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトのないドアに向かって親子連れを先導した。同シフトの

私は息を吐き出した。この職場はあまり心臓によ

に女の子は立ち上がり、

緒に来たと思しき男の子と

緒に歩いていた。

ζ

ない。

エントランスは殺風景で、 問 四四 3 b 潜入型の語 出口ドアから覗くカラフ

り手

ューズメントパークの園内である。 ルな電飾のような愛嬌はない。しかしそこは既にアミ

その回る動きも、すでに入場料を払っているのだか 銀の半円リングが回っている。

並んだカメラがきらきらと照明を反射して、飛び込ん 虹をくぐった先の魔法の国、 飾り立てられた非日常への門。銀の半円リングに 霧を抜けた先の不思議の 非日常へと向かう装置で、来園者の期待を掻き立てる。

アトラクションの一部と言えなくもない。

それは

5

国

動かす機会は多くない。このジャンプして飛び込む いものだ。 に送る。その動き自体が、日常生活では目にかかれな だ大人の子供のスキャンし、 VRアミューズメント施設では実際に体を その現し身をデータ世界

う ヤ

ナを怖がる子供、

ったかもしれない。 いう動きは、たしかに一番大きなアトラクションであ

リングの外縁に近付いてしまう。並べられた複数点カ や く球の中央を通る。 正するのでだいたいの人間はきれいに半円リングの み台代わりのトランポリンが打ち上げ角度と速度を補 飛び込んでいく客を保安員が見守っている。 おっかなびっくりすぎて勢いの足りない大人達は、 しかし時折、 勢いあまった子供達 踏み込

態を避けることだ。できるかぎりスキャナの安定稼働 られる。保安員が指導されているのは、そのような事 しかし、彼らがうっかりカメラにかすってレンズを汚 しでもしたらそのスキャナは半日はメンテに時間 を取

ズで飛び込もうがデータ構築を失敗することはない。 メラでスキャンデータを補正するので、多少変なポー

時間を延ばして、沢山の客を捌く。そのためにはスキ うまく飛べそうにない大人、そ 文体操舵記録

いったものを手短に別室へ案内することも含まれる。 マニュアルでは、 別室扱いの客が出た時のためにペ

アで保安員を配置するよう記されている。

場所を選んだ理由だった。 当事者の記憶の中にある。 は実際に運用される前の状態であった。 ずんだ枠となって残っている。アトラクションではな ャの導入事例としてカタログには載っているが、それ いので、広告用の園内写真もない。サイクルキャプチ エントランスは殺風景で、 それこそが、 撤去された機材の跡が黒 当時の面影は 唐木田がこの

げて緑のジャケットの女性が頷いた。 れた線を隠しきれてはいない。 唐木田 が振り返ると、 機材の 跡の染みから目線を上 化粧でも、 やつ

ります

「わざわざこちらまでいらして頂き本当に感謝してお

いた。

「当日の様子を話していただけますか?」 無理もない。

込むだろう。 かった。少なくともその点で、二人の利害は一致して 言を引き出すことができなければ、あと数年はもつれ といったかが部屋を外しているときの出来事だった。 者は彼女だったのだ。もう一人の保安員、たしか宮垣 み割り当てられているが、事故が起きた時の第一応答 めぐる訴訟は続いている。 していた。当時のシフト表ではスキャナールームにの ンスのスキャナールームとレセプションの両方を担当 まだサイクルキャプチャの開発元と、 高橋も唐木田も、 高橋という名の元従業員は、エントラ 唐木田がこの場で有効な証 そのシナリオは避けた 事故の責任を

の事例が念頭にありました。 余談ですが、書いているときは過去の回転ドア事故 回転体に人間を接触さ

せ

なり高速化しているので特段優位性もなさそうです。即禁止されるものです。現実の3Dスキャン技術はかこんなアホみたいなシステムの装置は人が死ぬ以前にるのは大変危険なので安全管理は徹底されるべきだし、

文体操舵録

2022/07/13 初版発行

著者 あやふや

Telecocoon, Ltd. 発行

https://telecocoon.netlify.com

組版

vivliostyle-jppb https://github.com/ayhy/vivliostyle-

jppb

電子版なので乱丁落丁の代わりに誤字脱字がありま す。ご容赦ください。